



子どもシェルター全国ネットワーク会議 in 兵庫に参加して

ホーム長からの感想

全国会議では、志を同じくする多くの仲間との出会いがあり、有意義な時間となりました。「心理的安全性」に関する分科会では、子ども支援の質を高めるためにはスタッフの心理的安全性が担保されていることが不可欠だと学びました。子どもは周囲の大人の感情や関係性に非常に敏感です。子どもが安心して暮らせる場を提供するためには、スタッフ自身が安心感や尊重されている感覚を持てていることが大切です。スタッフが互いに尊重しあい子ども達の幸せのために何が必要か、一緒に考えながら今後も支援していきたいと思います。

スタッフからの感想

全国のシェルターで活動されている理事・スタッフの皆さまと、子どもの事例を共有しながら意見交換を行いました。意見交換の中で特に印象に残ったのは、子どもの行動だけを見るのではなく、「なぜその行動に至ったのか」という背景まで考えることの大切さです。問題行動として捉えられがちな場面であっても、その裏には不安や戸惑い、これまでの経験が影響していることが多くあります。今回の学びを、今後の支援活動に活かしていきたいと思います。



ご支援の方法

正会員・賛助会員になって、子どもたちと一緒に支えて下さい。

ご寄付をお願いします。金額は問いません。

お寄せいただいたご寄付は、子どもたちのために活かされます。

ボランティアとして参加をお願いします。
シェルターにはたくさんの人の力が必要です。

「子どもセンターるーも」の研修、イベント活動、広報活動など、可能な形でご参加ください。

会員・寄付

正 会 員 / 入会金 5,000円 年会費 5,000円
賛 助 会 員 / 個人1口 3,000円 (年間)
法人1口 10,000円 (年間)

振 込 先

銀 行 名 / きのくに信用金庫 本店営業部
口 座 番 号 / 2629421
口座名義人 / NPO法人子どもセンターるーも

銀 行 名 / ゆうちょ銀行
口 座 番 号 / 14730-16476891
口座名義人 / 特定非営利活動法人子どもセンターるーも
(トクビ)コドモセンターるーも

事 務 局

特定非営利活動法人「子どもセンターるーも」
〒640-8276 和歌山市作事丁38番地

お問い合わせ先

るーも るーも
☎ 073-425-6060
受付時間 10時～17時まで



「子どもセンターるーも」



lumolumo0228

子どもセンターるーもの情報、活動などを配信しています！



特定非営利活動法人

子どもセンターるーも

News Letter

NO. 16
発行日 / 2026 年5月吉日

るーもの日常

「ここ焼けてるよ。お皿に入れようか？」

スタッフの声かけに、Aちゃんがこくりと頷きました。この日の夕飯は、ホットプレートで囲んでの焼き肉。キッチンには、おいしそうな香りがいっぱいに広がっています。

一方、Bちゃんはお肉が少し苦手とのこと。「あれ？ 事前に焼き肉が大丈夫か聞いたけど…… OK って言ってくれたよね（笑）」とスタッフが声をかけると、Bちゃんは「焼き肉の野菜が好きだから、いっぱい食べるよ」とにっこり。ウインナーも「おいしい」と嬉しそうに頬張っていました。

「お腹は大丈夫？」と尋ねると、「フライドポテト食べたい」との返事。「了解、追加オーダーね」。

食卓には笑顔があふれ、食事の時間が子どもたちにとって大切なひとときであることを改めて感じます。

県内にある2階建ての一軒家が、子どもたちの生活の場となっています。キッチンやリビングなどの共用スペースに加え、子どもたちには鍵付きの個室が一人一部屋提供されます。冷暖房やベッドも備え付けられており、まるで普通の家庭の子ども部屋のような、安心できるプライベート空間です。

シェルターでの生活には細かい規則はありません。できる限り子どもたちの希望に寄り添い、家庭のような安心感とくつろぎを感じながら過ごしてもらえよう努めています。ただし、起床時間と就寝時間は、規則正しい生活習慣を身につけるためにできる限り守ってもらっています。

日中の過ごし方は本当にさまざまです。料理、ゲーム、音楽、お菓子作り、読書、イラスト、描画……それぞれが興味のあることに取り組みます。時にはスタッフも一緒になって折り紙をしたり、卓球をしたりすることもあります。月に数回は関連施設の体育館に出かけ、バドミントンなどで体を動かすこともあります。

また、タブレットで YouTube を楽しむ時間もたっぷりあります。

学習については、ボランティアさんに教えてもらったり、塾に通ったりすることも可能です。

スマホの持ち込みができない、自由に外出できないなどの制限はありますが、それ以上に「ここにいて安心できる」と感じてもらえるよう、子どもたちの意思を尊重しながら寄り添う支援を大切にしています。

(シェルタースタッフ)





2025年度ボランティア養成講座

2025年12月7日(日)および12月13日(土)の2日間にわたり、特定非営利活動法人子どもセンターるーも主催のボランティア養成講座を開催しました。

今年度も、児童福祉の各分野でご活躍されている専門家の方々を講師にお迎えし、全7講座を実施しました。両日ともに多くの方にご参加いただき、講座修了後には新たにボランティア登録をしてくださる方もおられました。

以下、当日の様子を簡単にご報告いたします。

1日目 (12月7日)

1講座目は、「**子どもシェルターの役割と必要性**」をテーマに、るーも理事の伊藤あすみ弁護士より、子どもシェルターるーもの概要について、安心して生活できる居場所を失った子どもたちのための緊急避難場所としての役割や、一時保護所や自立援助ホームとの違い、入居から退居までの流れなどについて、具体的な資料や写真を用いて説明しました。

2講座目は、児童精神科医の松岡円氏による「**精神科医からみた子どもへの支援**」をテーマにしたご講演でした。子どもは「小さな大人」ではなく、それぞれの発達段階や置かれてきた環境に応じた理解が必要であること、「原因探し」よりも「どうになりたいか」「何ができるか」を一緒に考える姿勢が大切であることなど、日々の支援に直結する視点について分かりやすくお話しされました。

3講座目は、「**里親制度について**」、里親支援センターほっとの村岡久美子さんが説明してくださいました。社会的養護の仕組みの中での里親制度の位置づけや、家庭的養護の意義、支援体制の現状などについて、具体例を交えながらお話しいたいただき、子どもたちの次の居場所を考える上で大変参考になる内容でした。

4講座目は、大阪で子どもシェルターを運営している特定非営利活動法人子どもセンターぬっくのホーム長より、日常生活を通じた子どもたちへのケアについてお話しいたいただきました。ぬっくハウスでの生活の様子や、安心安全な環境を整えることの大切さ、また、日々の関わりの中で「あなたは大切な存在だ」というメッセージを伝えていくことの重要性について、具体的な事例や写真を交えてご紹介くださいました。

2日目 (12月13日)

1講座目は、「**児童福祉の現状と課題**」をテーマに、和歌山県中央児童相談所所長の鈴木玲氏よりご講演いただきました。児童相談所に寄せられる相談の現状や対応の流れ、虐待の背景にあるさまざまなリスク要因、施設や里親、自立援助ホーム、子どもシェルターの役割などについて、豊富なデータと現場でのご経験を踏まえてご説明いただきました。支援を行う上では、まず子どもや保護者に「安全感」を与えることが前提であることが強調され、大変印象に残る内容でした。

2講座目は、「**思春期の子どもたちへのかかわり**」をテーマに、一般社団法人アンコーラ代表理事で公認心理師・臨床心理士の北谷多樹子氏よりご講義いただきました。思春期の子どもたちの拒絶的な言動の裏にある気持ちや、それを「試し行動」として理解する視点、ボランティアとしての適切な距離感など、具体的な事例を用いたワークも交えながら学びました。

3講座目は、るーもスタッフおよびボランティアより、日々の活動内容についてご紹介しました。るーもでの1日の生活の流れや、余暇活動・外出活動、季節行事、現在のボランティア活動の状況、今後お願いしたい活動内容などについて説明があり、最後にはグループに分かれて意見交換を行いました。

2日間を通して、児童福祉の制度や現場での課題、子どもたちとの具体的な関わり方について、多角的に学ぶ機会となりました。

おわりに

今回の講座で得た学びを今後の活動に生かし、引き続き、居場所を必要としている子どもたちのために、スタッフ・ボランティア一同、力を尽くしてまいります。



ボランティア養成講座チラシ



子どもシェルター全国ネットワーク会議 in 兵庫

2025年9月27日、28日に子どもシェルター全国ネットワーク会議が兵庫県尼崎市で開催されました。

子どもシェルター全国会議は、毎年開催されており、子どもシェルターを運営する団体や新しく設立を検討している団体が集まり、意見交換、設立支援、研修などが行われています。

1日目の前半は、総会とこども家庭庁による行政説明が行われ、後半は、3つの分科会（①職場環境の心理的安全性、②運営の苦勞と知恵、③事例検討）に分かれて協議をしました。

私は、②運営の苦勞と知恵に関する分科会に参加しました。グループに分かれて、全国各地のシェルターの悩みや工夫などについて意見交換をしました。最後に、各グループで、シェルターの運営をキーワードで表してみることにになりました。

各グループから出されたキーワードを紹介します。

「**風**」＝外部とのつながりが大切

「**ぬるま湯をぶち壊す雷親父**」＝こうあって欲しいとの葛藤がつきものである

「**エベレスト登山**」＝登山のようにスタッフ、スポンサー、シェルバなど様々な役割が必要である

「**いい加減**」＝肩の力を抜いて10年、20年先をイメージすること

「**球団経営**」＝球団経営のように監督、選手、お金など様々な役割が必要である

「**タンバリン**」＝一つ一つが共鳴する存在である

それぞれのキーワードに込められた意味は、共感できるものばかりでした。

2日目には、各分科会の報告と子どもシェルター第三者評価に関する報告及び意見交換が行われました。

今回も、全国各地のみなさんと悩みを共有したり、アドバイスを頂いたり、実り多い時間を過ごすことができました。

今回は、佐賀県にて開催される予定です。

(理事：伊藤)